

## 地域お助け隊「さくらエール」 の立ち上げ・活動について



神楽まちづくり推進協議会

令和4年11月15日（火）

## 🔍 桜岡地区について

- ・旭山動物園の北側に位置している
- ・農業や畜産などを生業としている世帯が多い
- ・美しい景観や地域性を利用した産業も盛んで、旭川モンゴル村やクラークホースガーデンなどの宿泊や自然体験ができる施設や喫茶店などがあり、観光客の出入りも活発
- ・昔から住んでいる住民同士のつながりが強く、互いに声掛けや日常の助け合いを大切にしている

[世帯数] 172世帯

[人口] 348人

[65歳以上] 158人

[高齢化率] 45.4%

(令和4年8月1日時点)

## 「さくらエール」とは？

- 東旭川・千代田地域包括支援センターが桜岡地区の住民とともに、地域ケア推進会議「さくらエール」を実施
- 「地域の強み・魅力」や「地域の課題」などについて、話し合いを重ねてきた
- 話し合いの結果、「高齢化が進んでも安心して暮らし続けられる地域を目指し、近隣住民による助け合い活動を進めることが必要！」という結論に至り、地域住民同士による支え合いの仕組みづくりを目指すこととした

## 立ち上げまでの経過

- 住民によるごみ出しや電球交換など身近な困りごとを行う「地域お助け隊（有償ボランティア）」の立ち上げを目的とした「旭川市地域まちづくり推進事業負担金」の活用について検討
- 「安心して住みやすい地域づくりのためのアンケート」を全世帯に配布  
⇒「生活での困りごと」などについて聞き取りを実施
- アンケート結果を基に、地域お助け隊の立ち上げに向けて、活動メニューや料金設定、協力員の呼びかけ、必要な備品などについて話し合いを実施  
  
⇒令和3年8月に地域お助け隊「さくらエール」発足！

## さくらエールメンバー

- さくらエール実行委員会 / 7名  
⇒定例の会議に参加しているメンバー
- 協力員 / 13名  
⇒お助け隊の依頼があった際に活動するメンバー
- 農家の方や飲食店を営んでいる方が多い
- 除雪機や草刈り機などを所有していたり、庭木の剪定が得意な方などがある
- 60代～70代の方が中心

## 活動内容

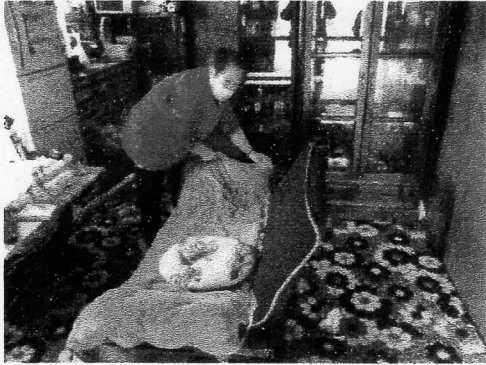
[メニュー]

- ・除雪
- ・庭・畑おこし
- ・冬囲い
- ・お話し相手
- ・その他（電球交換、重い物の移動、納屋の整理・片付けなど）
- ・草刈り
- ・花植え
- ・ごみ捨て
- ・見守り

※活動によって金額が異なる。また、一部の活動は無料

## 令和3年度の活動実績

- 除雪機による除雪作業 … 1回
- トラクターでの除雪作業 … 3回
- 掃除機かけ … 4回



## さくらエールの特徴

- 住民同士の長年のつながりを活かして、普段から気にかけてり声かけをして活動の周知をしています
- 協力員が依頼者として活動を依頼することもあり、「お互いさま」の気持ちで活動をしています
- 「何か地域にできることをしたい！」という想いを持つ若い世代や他地区などから転入された方の協力が増えています



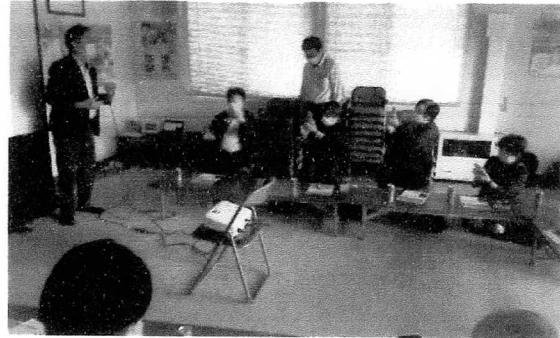


## 令和4年度も活動中

○草刈りやごみ出しの依頼を受けて  
活動中

○スマホ教室開催 / 10月  
⇒スマホ基本操作について学び  
LINEグループを作成

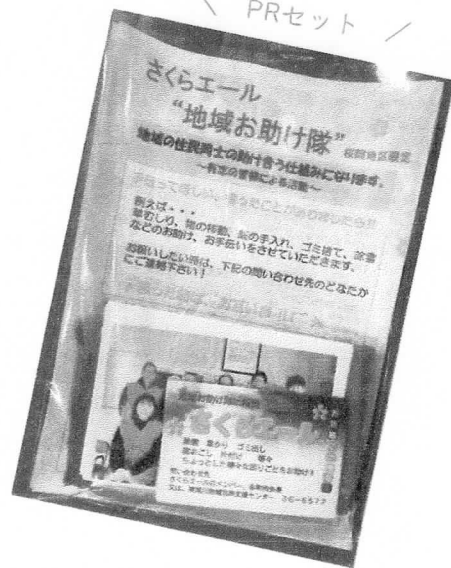
スマホ操作、LINEの  
やり取りについて学びました /



## 令和4年度も活動中

○PRセット（お助け隊チラシ+協力隊  
募集チラシ+さくらエールマグネット）  
の準備・全戸配布 / 11月～

PRセット /



# 高齢者の生活 ご近所が支援

## 掃除や除雪、草刈り…有償お助け隊

### 旭川の桜岡地区

住民の半数近くが65歳以上のお年寄りという旭川市東旭川町の桜岡で、40〜70代の住民による地域お助け隊「さくらエール」が発足し、高齢者宅の掃除や除雪を有償で手伝っている。市内では、このほか三つの地域で同様の取り組みを行うお助け隊が活躍中。高齢化で行政や民間の支援も限られる中、ご近所同士の手助け合いが広がっている。

(若林彩)



80代の男性宅で掃除機をかける。さくらエールの後藤さん（1月16日）

さくらエールの主な支援内容

除雪	30分500円 機械作業は1時間3千円
庭・畑起こし 草刈り	30分500円 機械作業は1時間1500円
花植え	30分300円
掃除 重い物を運ぶ 電球の取り替え	30分300〜500円
ごみ捨て	1回100円
話し相手・見守り	無料

さくらエールの会長を務めるのは民生委員の後藤依子さん(71)。桜岡は農村地域で人口343人、高齢化率は45%に上る。家と家の距離も離れ、近所の様子が分かりにくい課題があった。後藤さんは日常的に高齢者宅を巡回していたが、「農作業中にけがをしたり、自宅一人でくたくなっていた人がいた」と心を痛めていた。

桜岡を管轄する東旭川・千代田地域包括支援センターの社会福祉士・佐藤翔太さん(36)も高齢者の支援策を模索していた一人。後藤さんに声を掛け、2020年4月から、同センターと住民8人でお助け隊発足に向けた話し合いを重ねた。

ねた。除雪や草刈りだけでなく、住民アンケートで要望のあったごみ捨てや掃除機をかけることも支援に加えた。支援する側とされる側の両方が気軽に続けられるよう活動は有料にし、支援内容も「危険な作業は行わず、できる範囲で」と決めた。

昨年10月から、おそろいの赤いベストを着て活動している。周知不足もあって、継続的に支援する高齢者は2人と少ないが、「顔なじみだから頼みやすい」との声が届く。支援する側の後藤さんも「ただ掃除するだけではなく、食事を取っているか、詐欺にだまされていないかと声をかけている」と話す。一方、7人だった隊員は12人に増えた。最年少でカフェ店主の目黒徳人さん(46)は「地域の結び付きが弱まっている中、空いた時間に手伝えれば」と支援を申し出た。

今後に向け、佐藤さんは「地域の支え合いをつくるのがゴール。日々の安全確認や災害があったときに連携が図れる」と活動の意義を語る。

市内のお助け隊は19年に新旭川地区の旭新自治会で結成され、その後、末広地区の八親町内会としてらさき町内会にも広がった。市も年間の活動費を最大10万円、2年限定で助成する。